

2018年1月1日
テオリア第64号

定価 350円
毎月10日発行
定期購読料 年間 4000円
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア
東京都千代田区内神田1-17-12
勝文社第二ビル101
TEL&FAX 03-6273-7233
ホームページ
http://theoria.info
E-mail: email@theoria.info



2017年12月7日、国会前

テ
オ
リ
ア
2
0
1
8
新
年
座
談
会

ポストグローバル化の世界は

どこに向かうか

大陸覇権の中心に中国が世界資本主義の命運を握る？

「中国は「帝国主義」か

司会 2017年はロシア革命100年で、1月にトランプ政権が成立し、そのTTP・パリ協定からの離脱、EUの動揺など「グローバリズムの終焉」が言われ

出席者

武藤 一羊

(ピープルズ・プラン研究所)

船橋 邦子

(北京JAC)

丸川 哲史

(明治大学教員)

司会 繁山達郎(研究所テオリア)

北東アジアを中心に議論していきたい。

トランプ政権が今までとは違うアプローチをしてくる中で、中国が世界資本主義の命運を握っていると言

える状況。習近平政権2期目がスタートしたが、今の中国をどう見るから議論していきたい。

丸川 最近のことですが、北京で農民工を周辺地域に追いやるために「火事」が起こされている。つまり、かつての日本の地上げのよ

うな動きで、十万人以上が追い立てられている、と言われている。その際、以前は「下層」と社会的な言葉で呼ばれていた人たちが、最近「低端人口」と

差別的な言葉で呼ばれるようになった。

十数年前、03年、胡錦濤政権は農村から都市に来る

農民工を追い返すのをやめて、受け入れる方向に切り替え、都市内部の農民工の人口が増えているが、今や逆転が起きている。インフラ整備はもう終わったから、建設現場労働が都市内部ではいなくなった、という位置づけです。人口を外に散らし、金融やITなど「高度な生産性」の高い地区を作りたい、ということ

中国の外側(西域)に向けた政策としての「二帯一路」政策とは運動している。つまり、産業の高度化。古いインフラ産業は「外」に出すことだ、と想定できる。

そこで、知識人の一部に中国もかつての帝国主義の歩みをたどっているのではないか、という議論もある(これは資本の一般法則に当て嵌めた議論)。しかし、流動化は階級移動を意味した「そうではない」という

テオリア大阪新年読書会
白川真澄(季刊ピープルズプラン編集長)
2月3日(日)午後1時半
弁天町生涯学習センター
テオリア読書会(大阪)

国連・憲法問題研究会講演会
「明治150年」肯定史観批判(仮)
山田朗(明治大学、近現代史)
2月24日(日)午後6時(予定)
文京区民センター/研究所テオリア

紙面紹介
新年座談会 ポストグローバル化の世界はどこに向かうか
武藤一羊・船橋邦子・丸川哲史……1~6面
ロシア革命100年 ロシア革命の「意味」と現代世界(下) 森田成也……6~7面
所有者不明土地/1・14三里塚呼びかけ……8面

安保同盟のような構想だ。本首相として最多の外遊をしてせつせと中国包囲網作りを励んできた。だが誰にもまともに相手にされていない。日本は国際政治的にASEANを経て日本で完全にカヤの外におかれかねている。

中央アジアが フロンティアか

武藤 世界資本主義全体として、実物経済での利益を上げられる投資先がなくなり、資本は金融に殺到し、ついにリーマンショックまで行った。そのなかで、B&Rのような形をとってユーラシアが大量の資本を吸収しうるフロンティアとして出現しつつある。そうみると、ユーラシアが、中国だけでなく、世界資本主義にとつて、しばらくの延命の場所となるかどうか。そういう効果を頭に、とくにヨーロッパは重大な関心を持っているのではないか。

丸川 そこでユーラシア構想について言うと、中国の構想とロシアの構想、またインドの構想はそれぞれ違っている(また中央アジア諸国も)。違っているが、



2017年5月3日

ある程度まとまって、アメリカのヘゲモニーが関与できないエリアの形成になんとか向かっているように見える。ヨーロッパはユーラシアの地続きとして視野に入ってくるわけですが、

武藤 このプログラムは、民衆と環境に破壊的变化をもたらすに違いないので、資本にとつて同時に、グローバルな民衆の解放の運動にとつても最前線になる可能性をもっていると思う。アメリカの西部開拓と同じ効果をもたらす。世界資本主義の延命にとつて、新しいフロンティアとして位置づけられることになるのではないか。

丸川 かつて合衆国はアメリカ大陸の東から西に向かって開拓し、それが太平洋

洋で終わる、ということだった(その延長線での太平洋権力の形成、その突端にあるハワイ併合が1898年)。地政学的にユーラシアはそのような構造ではない。東西の両端の力が真ん中で交わる、といった具合になる。

武藤 スリランカも同じ状況。インドの警告は、これに参加すると中国から借金を負わされて、膨大な利息が払えなくなり、結局土地や港が中国に取られてしま

体的な進展を見ると、パキスタンのクワダル港を中国が租借する(警備しているのはパキスタンの警察)、という段階にきている。現地では様々な利害が絡んでいるのだが、既に反中運動も起きている。

武藤 スリランカも同じ状況。インドの警告は、これに参加すると中国から借金を負わされて、膨大な利息が払えなくなり、結局土地や港が中国に取られてしま

というのをほとんどの人が入れた国家間チャンネル知らない。うんざりする運動をやっている人間でも朝鮮問題を語るだけでその場の空気が悪くなる。それくらい意識が完全に操作されている。北朝鮮でも、私たちが同じように暮らしている人たちがいる。

丸川 六カ国協議という枠組が消えたことが空気の大きな転換点。六カ国協議自身がそもそも朝鮮戦争をどう終わらせるかが始まった枠組みであった。今は北の指導者がロシア、中国、アメリカを天秤にかけながら、危うい国際政治をやっている。どう安定させるかを考えると、中国、ロシア

丸川 中国の関与において軍事的比率が高くなりすぎると、おそらく中央アジア、南アジア、アフリカ諸国なども反発するだろう。ただ、アメリカと比較すると、今のところ軍事的比率は高くない。

丸川 「二帯一路」政策の具

丸川 中国の関与において軍事的比率が高くなりすぎると、おそらく中央アジア、南アジア、アフリカ諸国なども反発するだろう。ただ、アメリカと比較すると、今のところ軍事的比率は高くない。

丸川 「二帯一路」政策の具

丸川 武藤さんの意見に賛成。強力な反戦デモが起きるべきだが、起きない。

武藤 朝鮮戦争を終わらせるといのが出口。出口を

丸川 武藤さんの意見に賛成。強力な反戦デモが起きるべきだが、起きない。

武藤 朝鮮戦争を終わらせるといのが出口。出口を

「朝鮮半島危機」と グローバル化時代の人権

朝鮮半島問題の本質に向き合え

本質に向き合え

司会 米朝覇権は後退しているが、朝鮮半島の「核・ミサイル危機」でトランプ政権は軍事的選択肢を否定していない。それを唯一支しているのが安倍政権という状況。これをどこから批判していくか。

武藤 この間、瀬戸際政策を双方がやって、チキン

丸川 「二帯一路」政策の具

丸川 中国の関与において軍事的比率が高くなりすぎると、おそらく中央アジア、南アジア、アフリカ諸国なども反発するだろう。ただ、アメリカと比較すると、今のところ軍事的比率は高くない。

丸川 「平壤宣言」にはそういうニュアンスがあったが、忘れられている。「平壤宣言」は死んだというイメージで皆考えている。さらに振り返ると、戦後日本の歴史は朝鮮戦争をきっかけに変化した(経済復興、更に再独立の形態も)。歴史的モメントを入れた運動の言説があっただけで、慰安婦問題などが意図的に消されてきた。平壤宣言の問題でも、現在が停戦で戦争が終わっていない

丸川 「平壤宣言」にはそういうニュアンスがあったが、忘れられている。「平壤宣言」は死んだというイメージで皆考えている。さらに振り返ると、戦後日本の歴史は朝鮮戦争をきっかけに変化した(経済復興、更に再独立の形態も)。歴史的モメントを入れた運動の言説があっただけで、慰安婦問題などが意図的に消されてきた。平壤宣言の問題でも、現在が停戦で戦争が終わっていない

研究所テオリア入会を

- 研究所テオリア会費
- 特別会 員・1口年6万円
- 研究会 員・1口年1万2千円
- サポーター会員・1口年間6千円
- 新聞テオリア定期購読を
- 一般購読定期購読料金
- 年間 4000円/半年 2000円
- 郵便振替口座 001800-5-5672906

研究所テオリア

三里塚管制塔占拠闘争40年集会賛同を

- 3月25日(日)午前11時/連合会館2階大会議室
- 1部「三里塚のイカロス」上映/2部 集会 1部+2部の参加費 千円/3部・懇親会 2千円、要事前申込
- 主催 三里塚芝山連合空港反対同盟(柳川秀夫代表世話人) /元管制塔被告団
- 賛同 個人1千円、団体3千円(公表可否の連絡を)
- 賛同金振込先/郵便振替 001800-5-5672906
- 研究所テオリア(通信欄に「管制塔集会賛同」と明記)
- 連絡先 三里塚芝山連合空港反対同盟/元管制塔被告団/三里塚空港に反対する連絡会

(3面から続く)
 瀬戸際政策に乗っかって、制裁、制裁、すべてのカードがテーブルの上にはずばらしい、などと踊っている。好んで巻き込まれるような状況を作って、それで安倍集団の人気を高める。三重三重にヤバイ。品がない振舞い、ではまずまされない。

ユーラシア覇権国と個人権

船橋 95年北京女性会議以降、中国のNGOネットワークとも交流している。北京女性会議で中国の人権の考えは変わったように思う。都市再開発での強制移住に対する反対運動やLGBT、女性の運動はどうなっているのか本当のところを知りたい。

丸川 LGBTなどの人権問題は、ある程度産業資本主義化が進み、中産階級ができてから出てくる問題。人権、LGBTなどを問題

丸川 麻生副首相は総選挙の際、「日本海側に行ったらを批判する演説をやったら盛り上がった」などと述べていた。

武藤 麻生は総選挙後、「北朝鮮のおかげで勝った」と言っている。彼はときどき本当のことを口にする。

側が行ってきた個人権を無視しがちな傾向があった。特に、ボルシェビズム型のやり方で国家建設に向かう中で、個人権はやはり弱くなっていた。しかし今後、個人権にかかわる潮流に試されることになるし、中国の知識人はそのことをかなり考えている。

化する意識は一般庶民では低い。喫緊の問題としては、農民工には都市戸籍がないので、その子どもたちへの教育が与えられない。その時、都市の若者が第三セクターのような形で学校を作る、という運動が起こり、その際共産党は黙認する、という運動状況があった。

丸川 これが冒頭で申し上げたような逆回転の中で試練に立たされている。いずれにせよ、旧社会主義国は20世紀初めから、西

ずっと貧しいままで、共産党はそれを放置している。中国社会にロジックとしての階級論がなくなったので、かわいそうな彼ら(都市下層)を何とかしなければならぬ——こういったことに参与するNPO組織は実は増えている。

中国の今を論じるには、今こそ階級論が必要であると言える。さらに理論的に言えば、大半の流通のあり方として「商品形態」が主流になったのだから、実際に中国において「資本論」は説まれるべき段階に来ている。

紀。だがさらに、21世紀には太平洋からユーラシアへ、ということになるのか。中国は今「西域」に向けて資本とヒトを大規模に動かそうとしている段階だが、国内政治はどうなっているのか。最も欠けているのは階級政治の発想。共産党が20世紀に培っていた階級革命のロジックを捨てていく。横の人口移動はあるけれども、実は階級上昇は少ない社会。貧しい人は

今井澄さんや最首悟のインタビューと一緒に一緒だった。私は52歳になるまで、正規の仕事に就けないで、非常勤で働きながら運動をしていた。

小英二『1968年』では「個人的なことは政治的なこと」、つまり私的領域そのものが政治的問題なんだという主張は十分に理解されていないと思った。女性への暴力とくに詩織さん問題などにみられるレイプ等に対する無理解は酷い。

ロシア革命100年でさまざまなロシア革命評価が出てくるが、フェミニズムから評価すると、ローザ・ルクセンブルグがもっと取り上げられるべきだと思う。

明後日文科省にロビイングに行くことになっていく。男女格差の指数であるGGI(ジェンダーギャップ)は144カ国中114位で下げ止まらない。一方で家庭教育支援法案が出てきて「親学」など親の道徳教育などで国家が家庭へ介入して行く。

丸川 1968年はベトナム反戦、パリ五月革命が起きて、学生運動はそれらに反応していた。その一方で、政府は明治100周年の政府行事を行っていた。対比として当時の活動家はどうか考えていたのか。



2017年12月15日＝沖縄・名護

隠される階級問題

丸川 中国の目が大きく「西域」に向くことになった要因として、日中関係が悪くなったことも大きかった。2012年に尖閣問題(領土紛争)が起こり、そして翌年AIEBが立ち上げられる。これを意識してなのか、安倍政権は「中国包囲網」など、もう一度海洋権力の再構成をめざして

いるようだ。しかしその「海洋権力」というものは、本格的には欧米が19世紀に完成させたものであった。一方内陸はどうであるか、ロシア革命、中国革命、インド独立は本格的には20世紀のカテゴリーに入るもの。大西洋を中心に回っていた世界がアジア・太平洋にやや寄る、という歴史が20世

安倍改憲との対決と「1968年」50年

1968年と今は切れたものではない

丸川 2018年は20世紀の世界秩序を作った第一次世界大戦終結から100年で、安倍政権が記念行事を計画している「明治150年」。21世紀の先駆けとなった「1968年革命」から50年になる。明治150年

は天皇代替わり、憲法改悪と結びつけられようとしている。これをどう見ていくのか。

船橋 私にとって「1968年」に問いかけた問題は、今も変わっていない。当時大学院生で東大闘争に参加

「明治100年」と「明治150年」

丸川 1968年はベトナム反戦、パリ五月革命が起きて、学生運動はそれらに反応していた。その一方で、政府は明治100周年の政府行事を行っていた。対比として当時の活動家はどうか考えていたのか。

船橋 68年は学生運動の最中。闘争に追われていた。明治100年なんて頭にな

丸川 明治100周年行事の委員を見ると、岡本太郎、桑原武夫など、代表的な戦後民主主義知識人も集められている。それへの批判があったのかな。

68年はちょうど日本が資本輸出国になっていく時期でした。活動家は明治維新100年をどうとらえていたのか。

武藤 闘争の焦点にはなら

なかったが、批判の立場表明はあった。当時は正面の闘争で忙しくて、行動のターゲットにはならなかったが、明治100年を近代日本の批判的反省の中に位置づけるという文脈は共有されていた。いろんな運動の側でどのような立場表明や行動があったかは、いま思い出せないが。

丸川 当時歴史学者は政府の「明治100年」を批判していたようです。政府がやろうとしている明治100周年の行事と今回の150周年行事——中身はあまり変わらないらしい。

武藤 状況は大きく変わった。1968年は戦後民主主義が体制として確立して、その抑圧性が学生や女性や市民に実感されるようになっていた。この支配体制への反逆として新しい運動が起こった。戦後民主主義が抑圧体制として初めて現れた。それまで民主主義は運動の旗印だった。

1960年と1968年の違いはそこにある。60年安保は全体としては戦後民主主義の旗印で行われた闘争だった。

ところが、今は95年以來の国家再編のプロセスが進行し、私の言い方では帝国継承原理を、アメリカ覇権原理と癒着したまま、復権し、憲法の平和・民主主義原理を排除していくプロセスが主流となった。彼らの言う「アメリカ製の憲法下の戦後レジーム」を清算して、現在を日本帝国の過去

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

の栄光に再結合していく、それを産経新聞は「歴史戦」と命名したが、そういう中で「明治150年」「歴史戦」の戦闘として位置づけられている。

船橋 明治100年の時は安倍政権のような国家主義的な動きはあまり顕著でなかったように思う。東大は民青が強かったから、私たちの運動は民青と徹底的に対立する。民青は民主的な手続きをへた自治会であり全共闘、全闘連はおかしいと批判してきた。私たちはそれに対して戦後民主主義の欺瞞性を訴えた。

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

明治維新と中国革命

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園



1968～69年東大闘争

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

24条改憲の危険性

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

安倍改憲の二段階戦略

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

丸川 68年当時、私は5歳でした。研究者としては、明治維新とロシア革命、中国革命を比較する立場です。基本的には明治維新は19世紀のカテゴリーに入れられるが、ロシア革命、中国革命、インドの独立は20世紀に入れられるのではないかと。そこで孫文は半々であつたように思える。周知の通り、孫文には明治維新を模範にしたい、という考え方があった。しかし日本人の側においては、明治維新を中国革命（アジアの独立）に結びつけることは少ない。そう考えた時、同様に、1968年にはベトナム戦争があつて、学園

(5面から続く)

「5面から続く」

し込まれ、受け身に回り、防戦一方だったと反省し、したがって、これから「反攻」にでなければならぬと言っている。

力関係について彼らは二段階戦略でかなり実績をつくり、いいところまで行ったが、最後のところで力関係はそう甘くはないと読んでいる。だから、3項加憲案が出てくる。

ここで彼らにとっての天

祐が起きた。朝鮮民主主義人民共和国(DPRK)の核・ミサイル危機である。かつて吉田茂は朝鮮戦争を日本資本主義の再生にとつ

ての「天祐」だと述べた。朝鮮半島危機は安倍にとつての天祐だったろう。安倍はこの危機を利用してかなり力関係を盛り返した。

その上、民進党解体の政局がもたらしたポーンナスも含めて、総選挙結果は必ずしも彼らの改憲プラン支持の増大を意味してない。確かに彼らはかなり「反攻」に成功しているが、刻々変わる力関係を我々はよく見

ロシア革命100年

ロシア革命の「意味」と現代世界

(下)

森田成也

国学院大学
非常勤講師

ブルジョア革命の時代から 永続革命の時代へII——永 続革命の時代

ヨーロッパやアメリカなどの資本主義の中核国ではかつての「下からの革命」とその後の「上からの革命」の合成によって、それなりにブルジョア民主主義的課題が達成されるという状況にありましたが、周辺国ではまだブルジョア民主主義

的な課題がほとんど達成されてないにもかかわらず、すでにブルジョアジーが反動化しており、しかもしばしば中核国のブルジョアジーや帝国主義権力と結託しているという状況にあります。では、こういう場合に誰が、あるいはどの階級

がこの課題を実現するのか、これが決定的な問題になります。そこで新たな階級主体として登場するのが、労働者と農民の連合なのです。周辺国においては、古い資本主義諸国と違って、分散的な手工業形態から徐々に形成されるのではなく、いきなり都市部の大規模工場に集中されて、温室的に形成されます。彼らは、低賃金と長時間労働に拘束され、最初からマルクス主義的の恩恵を受

ける。では日本はどうか。世間的な理念とは日本では憲法前文にあたるものであり、それが議論の出発点にして「9条」をめぐる闘争——武藤さんの話を聞いて感銘を受けました。中国に話を戻すと、中国が今やっている「二帯一路」をどう見るかは、自分たちの思考を鍛えるためのある種の実験ではないか、と思える。中国がやろうとしていることは、レーニンが帝

国主義論で批判していることと同じという言い方も成り立つ。その一方で、そうではないという言い方もあ

動一このこれまでの共闘方式でそれをバックアップすることはできるだろう。ただし、安倍改憲反対勢力の中には、安倍改憲を阻止したあとどうするのかについては違いがある。なかでも新9条論が安倍改憲提案と紛らわしい形に出てきている。安倍提案は、新9条論を当て込んで、運動を割っていくという戦術が仕込まれている。そこは非常に難しい。

私は、この複雑なプロセスの中で、憲法前文と9条をつなげて、次の日本国家像を練り上げていく、そして、問題を国会の憲法審査

会に閉じこめず、安倍改憲反対陣営全体の中で、また社会全体の中で、自由で活発な議論を広げていく。それが必要だと思う。安倍改憲はとにかくやらせない。こちらが出す。その議論の中に、沖縄非武装化を軸に、非武装国家の目標を再確認し、それへの内部的、対外的道筋を提起していく。そうでないと、安倍改憲をつぶした後はどうなるか。72年の憲法解釈の個別的自衛権まではよくて、集団的自衛権はだめに戻りしかな

いのか。憲法論として憲法9条を原則化した場合に次にどのような日本国家に向かっているのかを明らかにしていく議論は70年代社会党を中心に行われたが、その後は中断している。改憲プロセスが開始されるなかで、この質を高めておかないと分断に持ち込まれると思う。向こうは戦術的には上手だから、何か大問題が起きる

世界的視点と変革運動

丸川 習近平が良いとか悪いとかとは関係なく、今中国が世界に対して国連

放棄したブルジョア民主主義的課題を労働者階級と農民と同盟して遂行する必要性とその必然性が生じるのです。

このような階級的組み合わせのもとで、社会主義政

の交点で発生した事件です。すでにこのとき、ポナパルト帝政の崩壊と共和制の実現は、パリという都市だけでですがプロレタリア権力の成立へと結びつきま

強い傾向を帯びることになります。こうして、時代は、資本主義の中核国を主要な舞台とした「ブルジョア革命の時代」から、周辺資本主義国を主要な舞台とする「永続革命の時代」へと大きく転換するのです。

その最初の萌芽が1871年のパリコミューンでした。これはすっかり下降しつつあった「ブルジョア革命の曲線」と上昇し始めていた「永続革命の曲線」と

のを利用して、あるいは起こして、一挙に雰囲気を作って改憲に持ち込みたい。すでに天皇代替わり、2020年オリンピックが利用価値が高いと考えている。

それに対して、こちら側が個々の対応だけではなく、いかなる次の日本社会を私たちが欲するか、それをはっきりと出しておかないといけないと思う。

によって行なわれた周辺地
域への「外からのブルジョ
ア民主主義革命」と類似し
た、周辺地域への「外から
の社会主義革命」です。

この「永続革命の曲線」
の最後の頂点を飾るのが、
1968年革命です。1千
万人もの労働者が決起した
フランスの五月革命を中心
に、欧米先進国を含む世界
中の資本主義諸国で労働者
や学生や農民が大規模に決
起しました。この運動の中
心を担ったのは、やはりロ
シア革命や中国革命に鼓舞
された人々であり、その多
くは何らかの意味でのマル
クス主義者（レーニン主義
者や毛沢東主義者やゲバラ
主義者）であり、これは明
らかにロシア革命が生み出
した世界的衝撃が、ぐるっ
と一周してついに最も発達
した先進諸国にまで達した
瞬間でした。

しかし、先進資本主義国
の強力な支配体制はこの最
後のインパクトをも生きた
び、結局、1968年革命
は勝利するにいたりませ

で革命を起こしたわけでは
ない。しかし、そのヨー
ロッパでも多くは中途半端
にとどまったし、ヨーロッ
パ外部の周辺国では、何百
年も続いた封建的ないし半
封建的体制を打倒して近代
社会を作り出すというブル
ジョア革命の歴史的使命
は、結局、「永続革命の時代」
に引き継がれました。そし
て、その実現主体は、保守
化ないし反動化したブル
ジョア階級から、新たに勃
興した若い階級である労働
者階級とその同盟者である
農民階級に移りました。

しかし、農民と同盟した
労働者階級が封建体制を覆
して近代社会を実現するこ
ういうことは、「社会主義政
党による正しい指導が存在す
るかぎりですが」その変
革事業はブルジョア革命段
階では終わらずに労働者階
級の支配、社会主義的変革
に接続せざるをえない、つ
まり、永続革命にならざる
をえない。その意味でブル
ジョア民主主義的課題、近
代社会の創出という歴史的
課題は、「永続革命の時代」
において初めて、すなわち
周辺国においては社会主義
革命にまで行くことを通じ
て初めて実現されたので
す。つまり、フランス革命
はヨーロッパに近代社会を
つくり出すのに決定的な貢
献したのに対して、ロシア
革命は周辺国を含む世界中
に近代社会を作り出すのに
決定的な貢献をしたと言え
ます。これがまずロシア
革命の第一の世界史的「意
味」です。

しかし、ロシア革命は単
に19世紀レベルの近代社会
を実現したのではありませ
ん。フランス革命は自由、
形式的平等、ブルジョア民
主主義を普及しましたが、
ロシア革命は勤労者の権
利、社会的平等、民族自決
権を伴った「近代」（現代）
を普及しました。

一口に「近代社会」と言っ
ても、実は19世紀的な近代
社会は現在から見ると、
まったく不自由で、恐ろし
く不平等で、貧富の格差も
権利の格差もきわめて大き
な社会でした。それゆえ、
19世紀前半には、封建社会
の方がまだ人々は安定した
生活を営むことができ、よ
り自由で幸福であったと考
える知識人が大勢いたぐら
いでした。したがって、今日
のわれわれが「近代」とい
う言葉をかなり進歩的なイ
メージでとらえることがで
きるのは、その後のマルク
ス主義者を含む社会主義者
の闘争や、そして何よりも
1917年のロシア革命によ
って中長期的にもたらさ
れた社会的変革（「革命」と
いう明瞭な形をとらなかつ
た場合も含めて）によって
つくり出されたと言えま
す。というのも、ヨーロッ
パ資本主義国も、ロシア勤
労者国家との対抗上、勤労
者の権利を守ったり、男女
平等や民族自決権などに配
慮せざるをえない状況に追
い込まれたからです。

この意味で、ロシア革命
は、勤労者の権利や女性の
権利や少数民族の権利を重
視する近代社会、すなわち
「社会的平等を重視する現
代社会」を世界的規模でつ
くり出す上で決定的な貢献
をしたのであり、これがそ
の第二の世界史的「意味」
です。

ロシア革命の 世界的な位置づけ

このように、フランス大
革命を頂点とする「ブル
ジョア革命の時代」とロシ
ア大革命を頂点とする「永
続革命の時代」という二つ
の時代を対比することで、
ロシア革命の世界的な位置
づけが見えてきます。では、
「永続革命の時代」の最初

の頂点たるロシア革命は何
を実現したのか。
ブルジョア革命の役割は
古い封建体制を打倒して近
代社会を作り出すことで
す。しかし、それが革命的
手法で実現されたのは西方
ヨーロッパだけです（アメ
リカは古い封建体制のもと

で革命を起したわけでは
ない）。しかし、そのヨー
ロッパでも多くは中途半端
にとどまったし、ヨーロッ
パ外部の周辺国では、何百
年も続いた封建的ないし半
封建的体制を打倒して近代
社会を作り出すというブル
ジョア革命の歴史的使命
は、結局、「永続革命の時代」
に引き継がれました。そし
て、その実現主体は、保守
化ないし反動化したブル
ジョア階級から、新たに勃
興した若い階級である労働
者階級とその同盟者である
農民階級に移りました。

しかし、農民と同盟した
労働者階級が封建体制を覆
して近代社会を実現するこ
ういうことは、「社会主義政
党による正しい指導が存在す
るかぎりですが」その変
革事業はブルジョア革命段
階では終わらずに労働者階
級の支配、社会主義的変革
に接続せざるをえない、つ
まり、永続革命にならざる
をえない。その意味でブル
ジョア民主主義的課題、近
代社会の創出という歴史的
課題は、「永続革命の時代」
において初めて、すなわち
周辺国においては社会主義
革命にまで行くことを通じ
て初めて実現されたので
す。つまり、フランス革命
はヨーロッパに近代社会を
つくり出すのに決定的な貢
献したのに対して、ロシア
革命は周辺国を含む世界中
に近代社会を作り出すのに
決定的な貢献をしたと言え
ます。これがまずロシア
革命の第一の世界史的「意
味」です。

しかし、ロシア革命は単
に19世紀レベルの近代社会
を実現したのではありませ
ん。フランス革命は自由、
形式的平等、ブルジョア民
主主義を普及しましたが、
ロシア革命は勤労者の権
利、社会的平等、民族自決
権を伴った「近代」（現代）
を普及しました。

一口に「近代社会」と言っ
ても、実は19世紀的な近代
社会は現在から見ると、
まったく不自由で、恐ろし
く不平等で、貧富の格差も
権利の格差もきわめて大き
な社会でした。それゆえ、
19世紀前半には、封建社会
の方がまだ人々は安定した
生活を営むことができ、よ
り自由で幸福であったと考
える知識人が大勢いたぐら
いでした。したがって、今日
のわれわれが「近代」とい
う言葉をかなり進歩的なイ
メージでとらえることがで
きるのは、その後のマルク
ス主義者を含む社会主義者
の闘争や、そして何よりも
1917年のロシア革命によ
って中長期的にもたらさ
れた社会的変革（「革命」と
いう明瞭な形をとらなかつ
た場合も含めて）によって
つくり出されたと言えま
す。というのも、ヨーロッ
パ資本主義国も、ロシア勤
労者国家との対抗上、勤労
者の権利を守ったり、男女
平等や民族自決権などに配
慮せざるをえない状況に追
い込まれたからです。

この意味で、ロシア革命
は、勤労者の権利や女性の
権利や少数民族の権利を重
視する近代社会、すなわち
「社会的平等を重視する現
代社会」を世界的規模でつ
くり出す上で決定的な貢献
をしたのであり、これがそ
の第二の世界史的「意味」
です。

このように、フランス大
革命を頂点とする「ブル
ジョア革命の時代」とロシ
ア大革命を頂点とする「永
続革命の時代」という二つ
の時代を対比することで、
ロシア革命の世界的な位置
づけが見えてきます。では、
「永続革命の時代」の最初

「永続革命の時代」から どこへ？

最後に、現代を「永続革
命の時代」の終焉と位置づ
けるのなら、次は何の時
代であると考えべきで
しょうか？ 正直に申し上げ
ると、私は予言者でない
ので明確なことを言うこと
はできません。

言えるのは、今はまだ過
渡期であるということだ
です。これまでの到達点が至
る所で攻撃され破壊され
る中で、そうした権利や
獲得物を守ろうとする人々
の運動と闘いは絶えること
なく存在し、各地で発展し
ています。このような攻防
はまだ今後も続くであろう
し、その帰趨はまだ明らか
にはまだ完全に破壊されてい

地球はますます危機に陥っ
ています。地球温暖化の例
を出すまでもなく、地球環
境は末期症状の資本主義の
下で深刻な危機を迎えてい
ます。しかし、その一方で、
ソ連・東欧の崩壊によって、
社会主義はもはや現実的な
オルタナティブとはみなさ
れていません。このような
矛盾した状況が現代です。

では、こうした危機的状
況に対抗して新しい時代を
切り開く主体は何でしょう
か？ これまでの話から明
らかなように、「ブルジョア
革命の時代」と「永続革命
の時代」を分ける一つの重
要な基準は、変革の主要な
担い手、その階級的主体の
違いでした。では、「ポスト
永続革命の時代」といって
ずそう呼んでおきましょう
（う）における変革の主要な
担い手は誰なのか。ここで
は、ネグリの議論とハー
ヴェイの議論を紹介して、
この問題を考える手がかり
にしたいと思います。

ネグリはかつてのブル
ジョア階級やプロレタリア
ートという明確な階級主
体ではなく、マルチチュ
ーロ多党派というものを
革主体に設定しています。
現代資本主義が生み出す被
害者は多方面、多階級にわ
たっており、また労働者や
農民としての階級意識も拡
散し、曖昧化しています。
そうした状況の中で、多種
多様な民衆を「マルチ
チュード」という言葉で名
指すことによって、変革の
担い手を言説化していま

の終焉とともに現代社会が
大きく変容し、19世紀的な
ものへとますます接近しつ
つあることです。労働者の
権利保護から新自由主義
へ、社会福祉と社会的平等
から自立自助とレイシズム
へ、少数民族の尊重から排
外主義へ、互助的な貿易か
ら帝国主義的グローバリズ
ムへ。そして、こうした動
きに対抗する側も、近代的
な人権の規範と労働者農民
の階級的利益に依拠したマ
ルクス主義組織から、人権
的規範を一顧だにしない宗
教原理主義と極右排外主義
へと移行しつつあります。

これはそれなりに現実
に根ざした意見ですが、こ
れだともうにも漠然とし
ています。

それに対して、ハーヴェ
イは、もう少し対象を切り
分けて、二大変革主体論を
唱えています。以前の講座
（『テオリア論集1』）に所
収でも話しましたが、ハー
ヴェイは資本主義は二つの
主な蓄積様式にもついで
いると言っています。一つ
は、『資本論』で主に論じ
られている蓄積様式、すな
わち「拡大再生産による蓄
積」です。もう一つは、形
式的な交換関係をも蹂躪し
て富を暴力的に蓄積してい
く「略奪による蓄積」です。

われわれは、以上の議論
を参考にしつつ、この「ポ
スト永続革命の時代」にお
いて、変革の長期的展望を
持つ必要があります。日々、
労働者の権利を守ったり、
新自由主義やレイシズムや
性差別と闘ったり、反原発
に取り組んだり、そうした
闘いを遂行しながら、す
に末期状態にある資本主義
そのものの克服という展望
を堅持する必要があります。
当面するさまざまな闘
争とこのシステム変革の展
望とを媒介するものを見つ
け出さなければなりません。
（2017年9月16日の講
座の記録にもとづいて、講
演者が加筆修正）
森田成也 国学院大学非常
勤講師。著書に『ラディカ
ルに学ぶ「資本論」』（作品
社）ほか多数。

強制収用迅速化ねらう

「所有者不明土地特捜法」

所有者不明

土地問題とは

所有者不明土地に関する特捜法案が1月からの通常国会に提出されようとしている。

所有者不明土地とは相続など所有者が変わっているにも関わらず、登記変更が行われず放置される状態が続いて、空き家問題など都市計画や防災施策の支障になってきているというものだ。

法務省は、最後の登記から50年以上経過している土地が都市部で6・6%、地方では26・6%に上るという実態調査結果(6月)を公表。増田寛也らの「所有者不明土地問題研究会」は、所有者不明土地は全国で九州の面積を上回る約410万ヘクタール(16年)で2040年には北海道の面積に近い720万ヘクタールに拡大し経済損失が累計6兆円になるという推計を出した。同研究会は、土地登記義務化、所有権放棄制度、統合データベースの構築、「現代版検地」実施などを政府に提言した。

兆円になるという推計を出した。同研究会は、土地登記義務化、所有権放棄制度、統合データベースの構築、「現代版検地」実施などを政府に提言した。

「所有者不明土地」には江戸・明治の所有者の名義のままの登記もあり、市街地活性化や復興事業の妨げになっているという報道が盛んに行われている。

実際に所有者不明土地の原因となるいわゆる「負動産」に関しては、土地のみの相続放棄が認められないのでやむをえず相続した結果、土地の管理費と固定資産税で持ち出しになっていくという話をいくつも聞く。このような土地問題が放置された結果が「所有者不明土地問題」だ。

安倍「成長戦略」で

法案化

だが、被災地などでの「所有者不明土地」は以前から問題になっていたのに、なぜ17年度になってから法案化の動きが進んだのか。

それは17年6月の「経済財政運営の基本方針」(骨太の方針)に「所有者が分からない土地を公共目的などに利用できる仕組み作りを検討する」と盛りこまれたからだ。つまり、安倍政権の下での「成長戦略」の一環に位置付けられたのだ。

17年9月12日のNHKニュースは、所有者不明土地対策が必要な理由として、リニア中央新幹線の建設予定地での所有者不明土

地の存在による工事の遅れを生じさせないためにJR東海が対策に迫られたことを報じている。

同日、「石井国土交通大臣は閣議のあとの記者会見で『所有者を捜すために膨大な時間や費用と労力が求められており、大きな課題となっている』(NHKニュース、17年9月12日)と公共事業迅速化のために新制度が必要であると述べている。相変わらず、法案化の狙いは公共事業促進なのだ。

こうして、政府は増田らの研究会に並行して、9月に国土省と法務省が所有者不明土地対策の有識者会議を立ち上げた。

12月、国土省の会議である国土審議会土地政策分科会特別部会の報告が出され、特捜法案骨子となった。その内容のひとつは、所有者不明の空き地に事業を計画する市町村や企業、NPOなどが都道府県知事に土地利用を申請。5年以上の利用権を設定。公園、広場、直売所、保育所など公益のある事業目的に使用するようにする新制度の創設が柱とされている。事業者は、利用開始に際し、所有者が現れた場合に備えて賃料相当額を補償金として法務局へ供託。明け渡しを求められれば原状回復した上で返却するとしている。

収用委手続きが

不要に

だが、新設される制度は

それだけではない。公共事業での土地収用に関する特捜法案骨子の内容は以下のようなものだ。

「道路や河川などの公共事業で用いる場合、土地収用法の手続きを簡素化する。居住や事業に使われていない場合、小屋などがあっても、所有者が発言する機会などがある収用委員会の審理を省き、都道府県知事の裁定で権利取得できるようにする。」(日本経済新聞、17年12月6日)

「公共事業を進めやすくするため、国や自治体が土地を取得する手続きを簡素化する内容も盛り込んだ。」

「公共事業用地としての取得では、所有者を捜す聞き取り調査の対象を親族のみとし、手続きを迅速に進められる。」

「所有者が見つからなかった場合は、国や自治体に所有権を移転するのに必要な都道府県収用委員会の審理をなくし、知事の判断で公有化を決定できるようにする。」(毎日新聞17年12月6日)

「建築物がなく、反対者もいない利用されていない土地を対象に、公共事業の場合には都道府県知事が権利取得などを裁定する土地収用法の特例措置を講じ、収用制度の対象外の公共事業の場合は利用権を設定する。」

都道府県知事が権利取得と明け渡しを一本化して裁定する特例措置を講じる。」(日刊建設工業新聞、17年12月4日)

要するに、これまでは必要だった土地を強制収用するための収用委員会への申請、公開審理などは全て不要となり、都道府県知事の判断だけで強制収用を進められる制度となる。

法案骨子で「反対者もいない利用されていない土地を対象」とされているが、公共事業の影響を受け、反対する周辺住民などが制度上の「反対者」として認められるのは大いに怪しい。何しろ、所有権取得の裁決をするのも、「反対者」を判断するのも、同じ行政なのだ。

所有者不明土地問題がここまで深刻化した原因は、土地は値上がりし続けるといふバブル時代までの土地神話に基づいた制度を政府が転換しようとしなかったことにある。財政基盤が脆弱な自治体は税収(固定資産税)を減らさないために、土地放棄を認める制度に消極的だった。とくに破壊した「土地神話」に一番しがみついていたのが政治・行政だったのだ。

それが今度は防災対策や待機児童対策を表明の口実にして、公共事業推進に使うというわけだ。「所有者不明土地」対策の化けの皮をはがさなければならぬ。

河村遼

2018 反対同盟旗開きと 三里塚1・14東峰現地行動の呼びかけ

空港機能拡張による人権・環境破壊を許さない!

空港機能拡張による人権・環境破壊を許さない! (一部略) 政府・国土交通省・成田国際空港会社は資本の利潤の追求のために空港機能の拡大をはかろうとしている。2030年度までの第3滑走路の建設、2020年東京五輪・パハリピックでの旅客の増大を口実にした夜間飛行制限の緩和(現行午後11時から午前6時までの7時間を午前1時から5時までの4時間)を決め、さらに平行(B)滑走路の北側延伸計画まで提示した。

国・千葉県・関係9自治体・空港会社からなる四者協議会はこの計画を推進するために住民説明会を各地で行ってきた。移転対象となる住民、新たに騒音地域となる住民、騒音がさらに増大する騒音地域住民からは激しい批判の声が上がっており、断固反対が次々と表明された。

この結果、空港会社は飛行制限を現行より1時間短縮するという見直し案を提示し住民に説明した。しかし、住民はこれにも納得せず、なほ崩壊的にさらに短縮するのではないかと不信感を募らせている。

しかし、関係自治体は住民の反対を無視し、交付金の増額・地域振興策と引き換えに空港会社の見直し案を受け入れ「早急に地域振興策を」と、前のめりになっている。住民の生活を破壊してでも一部の利害関係者の利益を目指す利権追求の構図そのものである。

「(中略)空港会社はそれ以降、民事裁判に提訴して裁判所の強制力で農民、地権者から土地を取り上げるといふ手段を取ってきた。それによって用地内の一坪共有地を強奪し、農民の耕作地を取り上げようとしている。」

横堀地区にある反対同盟現闘本部も裁判で土地の所有権を奪ったうえで、建物の撤去、土地の明け渡しを求め訴訟を起した。一番千葉県では反対同盟側の証人調べの申請を却下し、たった4回の書面審理のみ

「第3滑走路計画」を撤回しろ!

新滑走路の建設は単に経済的な利潤追求という要因に留まらない。空港こそまさに兵站基地、出撃拠点として戦争遂行のための不可欠の軍事的インフラである。

空港反対の闘いを反戦闘争の一環としても位置付けて闘わなければならない。

1・14三里塚現地に結集し、三里塚農民と共に闘い抜こう!

2018 反対同盟旗開き

主権・三里塚芝山連合空港反対同盟(代表世話人・柳川秀夫) 日時:2018年1月14日



主権・三里塚芝山連合空港反対同盟(代表世話人・柳川秀夫) 日時:2018年1月14日

主権・三里塚芝山連合空港反対同盟(代表世話人・柳川秀夫) 日時:2018年1月14日

主権・三里塚芝山連合空港反対同盟(代表世話人・柳川秀夫) 日時:2018年1月14日